

開催地名：東京都町田市	
開催日時	令和3年11月25日（木） 9:00～9:55
開催場所	町田市役所 3階 会議室
語り部	上野未生 （岩手県大槌町）
参加者	自主防災組織 50名
開催経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災訓練の参加率が低下している。</li> <li>・ 感染症対策と避難施設の収容人数</li> <li>・ 若年層の危機意識が低下している。</li> </ul>
内容	<p>(1) 震災を知り、避難所運営を手掛けるまで</p> <p>私の出身は愛知県名古屋市だ。若いうちから海外の医療チームに所属し、発展途上国での看護師業務に従事していた。そのさなか東日本大震災をニュースで知り、日本に戻ることを決意。岩手県大槌町に派遣され、避難所運営のサポートに従事した。大槌町では災害対策として避難所運営時の組織図などを作成していたが、被災時は被害が大きく、配置通りに立ち回れない状態となっていた。</p> <p>(2) 大槌町の被害状況について</p> <p>大槌町では地震・津波よりも火災被害が大きかった。当時多くの世帯がプロパンガスを使用していたため、地震後の小さな火災がきっかけで約2000世帯分・4000本のボンベに次々と引火し三日三晩燃え続けたためだ。この災害で、人口の8%にあたる1286名（うち3分の1が行方不明者）の方が犠牲となった。</p> <p>特に被害が酷かったのは旧町役場。対策本部を立てていた役場は全焼し、町長・幹部レベルの職員7割・その他の職員3分の1が火災の犠牲となった。町民を誘導できる人材を失った町は混乱の中で避難所運営を開始。常時500～800人がストレスを抱えながら過ごす空間では小さなもめごとが絶えなかったが、日常的に近隣の間人関係や助け合いが出来ている大槌の地域性に助けられ、もめごとが大事になることは少なかった。</p> <p>(3) これからの災害に備えておくべきこと</p> <p>災害時の職員配置・もしもの場合のサブ配置までは考えられていたが、ここまで人が不足する事態になることは当然想定されていなかった。避難</p>

	<p>生活では用意する食料の数・配り方など決めることが際限なく出てくるが「この人はこれをやる」と決めてしまっていたことにより「この人がいない時どうすれば」と自ら決断できない役員が多いことを感じた。充て職をするよりも避難所運営の仕方・各動きに適した人の共有を全員に行い、災害発生時に居る人材でそれぞれの役割を当て込んでいく、という形のマニュアルが今後の災害対策には必要となるだろう。また、しっかりとした意思決定を行えるよう「やることリスト」で物事を考えるのではなく、「最低限幸せに過ごせるようにするには」という視点で考えることを意識していただきたい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
開催地より	<p>非常時に相手の見えない部分を知り、優しくすることは難しい。だからこそ、普段の暮らしの中で人と関わる大きな災害対策になる。誰もが決断を下せる仕組みを作ること、地域のコミュニティをより強めることに取り組んでいきたいと思った。</p>